



Title	建築家元田稔と教会建築 : 人物像と遺構作品について
Author(s)	川島, 洋一
Citation	基督教学, 30, 25-31
Issue Date	1995-07-05
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/46555
Type	journal article
File Information	30_25-31.pdf



建築家元田稔と教会建築

——人物像と遺構作品について——

川 島 洋 一

はじめに

本研究^①は、大正時代から昭和六十二年までの半世紀に渡って、関東・関西で建築活動を展開したキリスト教信者であり建築家でもあった「故元田稔」について、その生涯に手懸けた建築作品の中で、五十数棟という多くの教会建築に関与した活動経過に注目して、その設計手法と人物像について考察する事を目的としたものである。

研究方法としては、膨大なる遺品の中から教会建築作品を対象として、設計図書また設計活動関係資料の整理分類により、各作品での設計内容を明らかにし、また元田自身の伝道活動としての取り組み姿勢についても着目する事とし、本稿では元田稔の履歴と遺品リストを手掛

りとして若干の設計手法について考察を行う。

1. 建築家元田稔の略歴〔表―1〕

元田稔は日本聖公会東京教区初代監督（主教）になった元田作之進を父親として明治三十四年長男として生まれた。父の影響で大正十年に洗礼を受け、翌年には第六高等学校理科甲類（岡山）を卒業して旧東京帝国大学工学部建築学科に入学し建築家の道へとして出発した。

当時の建築界はドイツではバウハウス運動が起り、日本では分離派建築会が新しい近代建築思想を目指していた発展期であった。一方明治時代、外人技術者に西洋建築を学んだ日本人が、西欧へ留学の後、帰国して自らが建築教育に携わり、伊東忠太、佐野利器等の日本の近代建築初期を担った教師陣によって、元田稔は建築を学び、その建築手法にはこの様な教育的環境であったことから、工学的学問の背景にキリスト教思想が影響したと考えられる。

大正十四年卒業の後東京市、川崎市技手、民間の福田建築事務所設計に従事し、昭和十三年からは海軍に席

を置き終戦を迎えた。その後公的機関へ復帰、同二十五年「元田建築設計事務所」を開設して本格的に設計活動に入り、同時に建築教育に関与し芝浦工業専門学校（現大進）の指導にも活躍した。また同二十九年の世界聖公会会

明治34年 7月12日元田作之進元田悌の長男として東京に出生、二才上の姉■あり
 大正 8年私立高千穂中学校（東京）卒業、第六高等学校理科甲類（岡山）入学
 大正11年第六高等学校卒業、東京帝国大学工学部建築学科入学
 大正14年東京帝国大学工学部建築学科卒業、同年東京市技師
 昭和 3年東京市技師
 昭和 7年福田建築事務所主任技師
 昭和 9年大連中学校校舎新築設計嘱託（註）■は解説不明
 昭和 9年川崎市技師建築課長（初代）
 昭和13年海軍省建築局嘱託
 昭和17年海軍技術少佐
 昭和18年横須賀海軍施設部第二課長兼工員養成所幹部
 昭和19年舞鶴海軍施設部総務課長兼第二課長、工員養成所長
 昭和21年第二復員官、舞鶴地方復員局官業部部長
 昭和21年震災復興院仙台特別建設出張所所長技官
 昭和22年特別調査庁仙台支局促進部長、技術部長、管材部長
 昭和24年特別調査庁横浜支局管材部長、同年池田建築設計事務所取締役
 昭和25年元田建築設計事務所開設
 昭和26年芝浦工業専門学校建築科講師（昭和30年 3月解職）
 昭和26年一級建築士免許受領（登録番号00175号）
 昭和27年一級建築士事務所開設届（第208号）
 昭和28年日本建築設計監理協会（現在、日本建築家協会に改組）入会（会員番号127）
 昭和28年日本大学第二工学部（現工学部）建築学科講師嘱託（昭和57年まで）
 昭和29年米国ミネアポリスに於ける世界聖公会会議に出席、欧米23カ国視察
 昭和37年日本建築学会編、建築設計資料集成刊行委員会専門委員
 昭和40年学校法人高千穂学園評議員
 昭和41年ハワイ諸島建築事情視察
 昭和43年岡山大学（旧制六高）キリスト教青年会評議員及び理事
 昭和47年オーストラリア、ニュージーランド、ニューギニア建築調査旅行
 昭和55年頃より健康を崩す
 昭和62年 2月24日脳梗塞により死去（85才）



元田 稔

（表→1） 元田稔の略歴と人物写真

遺族から数多くの遺品が関係者中山敏雄氏を経て筆者の研究室に寄贈され、二十数個のケースには元田稔の活動経過を示す様に、大学時代のノート、図面、設計経過資料、建築関係文献（一部日大谷川研究室保管）、写真集スライド集また各賞状等、多岐に渡るものである。

2. 遺構資料について

議に出席し信仰的にも活躍が見られた。その後多くの建築作品を手懸けて昭和六十二年八十五歳の生涯を終えた。

（図→1） 旧東京帝国時代の学修簿（T14年3月）

「旧東京帝国大学での成績表と講義ノート」大正末期に学んだ時の学修簿(図-1)が残されていて、その内容を見ると各講座が並び、担当教授名と履修記録が記載されていて、この証明によって科目受験資格が与えられていた。履修科目で注目されるのは電気関係、地震工学また文学部専門科目等の広い分野で履修していた事がわかる。この履修講座に対応して多くの講義ノートが残り(表1・2)その内容も多岐に渡り、建築図版等は講義中に一枚づつ配布されていた様で、これらの資料をまとめると今日の建築図集となるものであった。また英文やカタカナ、文語体での筆記であり、現在口語体文章等に直す作業が行われている⁽²⁾。

「建築事務所での建築作品図書」事務所での資料は図面あるいは建築関係資料がそのほとんどで、本稿では「一般建築作品(省略)」と「教会建築作品(表-3)」と大きく二つに分類した。前者では運輸会社の社員寮、公団集合住宅が多数を締めているが、最高裁等の設計競技応募作品もあり、後者の教会建築では、プロテスタント教会の聖公会、教団が中心で、カトリック教会は少ないが

年代	科目名	担当教授	履修記録	年代	科目名	担当教授	履修記録
02001	有機化学(第1巻) タイトル名称	保田 健	21	02001	有機化学(第1巻) タイトル名称	保田 健	21
02002	有機化学(第2巻) タイトル名称	保田 健	21	02002	有機化学(第2巻) タイトル名称	保田 健	21
02003	建築図版(1) 山崎博士	山崎 博士	21	02003	建築図版(1) 山崎博士	山崎 博士	21
02004	建築図版(2) 山崎博士	山崎 博士	21	02004	建築図版(2) 山崎博士	山崎 博士	21
02005	建築図版(3) 山崎博士	山崎 博士	21	02005	建築図版(3) 山崎博士	山崎 博士	21
02006	建築図版(4) 山崎博士	山崎 博士	21	02006	建築図版(4) 山崎博士	山崎 博士	21
02007	建築図版(5) 山崎博士	山崎 博士	21	02007	建築図版(5) 山崎博士	山崎 博士	21
02008	建築図版(6) 山崎博士	山崎 博士	21	02008	建築図版(6) 山崎博士	山崎 博士	21
02009	建築図版(7) 山崎博士	山崎 博士	21	02009	建築図版(7) 山崎博士	山崎 博士	21
02010	建築図版(8) 山崎博士	山崎 博士	21	02010	建築図版(8) 山崎博士	山崎 博士	21
02011	建築図版(9) 山崎博士	山崎 博士	21	02011	建築図版(9) 山崎博士	山崎 博士	21
02012	建築図版(10) 山崎博士	山崎 博士	21	02012	建築図版(10) 山崎博士	山崎 博士	21
02013	建築図版(11) 山崎博士	山崎 博士	21	02013	建築図版(11) 山崎博士	山崎 博士	21
02014	建築図版(12) 山崎博士	山崎 博士	21	02014	建築図版(12) 山崎博士	山崎 博士	21
02015	建築図版(13) 山崎博士	山崎 博士	21	02015	建築図版(13) 山崎博士	山崎 博士	21
02016	建築図版(14) 山崎博士	山崎 博士	21	02016	建築図版(14) 山崎博士	山崎 博士	21
02017	建築図版(15) 山崎博士	山崎 博士	21	02017	建築図版(15) 山崎博士	山崎 博士	21
02018	建築図版(16) 山崎博士	山崎 博士	21	02018	建築図版(16) 山崎博士	山崎 博士	21
02019	建築図版(17) 山崎博士	山崎 博士	21	02019	建築図版(17) 山崎博士	山崎 博士	21
02020	建築図版(18) 山崎博士	山崎 博士	21	02020	建築図版(18) 山崎博士	山崎 博士	21
02021	建築図版(19) 山崎博士	山崎 博士	21	02021	建築図版(19) 山崎博士	山崎 博士	21
02022	建築図版(20) 山崎博士	山崎 博士	21	02022	建築図版(20) 山崎博士	山崎 博士	21
02023	建築図版(21) 山崎博士	山崎 博士	21	02023	建築図版(21) 山崎博士	山崎 博士	21
02024	建築図版(22) 山崎博士	山崎 博士	21	02024	建築図版(22) 山崎博士	山崎 博士	21
02025	建築図版(23) 山崎博士	山崎 博士	21	02025	建築図版(23) 山崎博士	山崎 博士	21
02026	建築図版(24) 山崎博士	山崎 博士	21	02026	建築図版(24) 山崎博士	山崎 博士	21
02027	建築図版(25) 山崎博士	山崎 博士	21	02027	建築図版(25) 山崎博士	山崎 博士	21
02028	建築図版(26) 山崎博士	山崎 博士	21	02028	建築図版(26) 山崎博士	山崎 博士	21
02029	建築図版(27) 山崎博士	山崎 博士	21	02029	建築図版(27) 山崎博士	山崎 博士	21
02030	建築図版(28) 山崎博士	山崎 博士	21	02030	建築図版(28) 山崎博士	山崎 博士	21
02031	建築図版(29) 山崎博士	山崎 博士	21	02031	建築図版(29) 山崎博士	山崎 博士	21
02032	建築図版(30) 山崎博士	山崎 博士	21	02032	建築図版(30) 山崎博士	山崎 博士	21
02033	建築図版(31) 山崎博士	山崎 博士	21	02033	建築図版(31) 山崎博士	山崎 博士	21
02034	建築図版(32) 山崎博士	山崎 博士	21	02034	建築図版(32) 山崎博士	山崎 博士	21
02035	建築図版(33) 山崎博士	山崎 博士	21	02035	建築図版(33) 山崎博士	山崎 博士	21
02036	建築図版(34) 山崎博士	山崎 博士	21	02036	建築図版(34) 山崎博士	山崎 博士	21
02037	建築図版(35) 山崎博士	山崎 博士	21	02037	建築図版(35) 山崎博士	山崎 博士	21
02038	建築図版(36) 山崎博士	山崎 博士	21	02038	建築図版(36) 山崎博士	山崎 博士	21
02039	建築図版(37) 山崎博士	山崎 博士	21	02039	建築図版(37) 山崎博士	山崎 博士	21
02040	建築図版(38) 山崎博士	山崎 博士	21	02040	建築図版(38) 山崎博士	山崎 博士	21
02041	建築図版(39) 山崎博士	山崎 博士	21	02041	建築図版(39) 山崎博士	山崎 博士	21
02042	建築図版(40) 山崎博士	山崎 博士	21	02042	建築図版(40) 山崎博士	山崎 博士	21
02043	建築図版(41) 山崎博士	山崎 博士	21	02043	建築図版(41) 山崎博士	山崎 博士	21
02044	建築図版(42) 山崎博士	山崎 博士	21	02044	建築図版(42) 山崎博士	山崎 博士	21
02045	建築図版(43) 山崎博士	山崎 博士	21	02045	建築図版(43) 山崎博士	山崎 博士	21
02046	建築図版(44) 山崎博士	山崎 博士	21	02046	建築図版(44) 山崎博士	山崎 博士	21
02047	建築図版(45) 山崎博士	山崎 博士	21	02047	建築図版(45) 山崎博士	山崎 博士	21
02048	建築図版(46) 山崎博士	山崎 博士	21	02048	建築図版(46) 山崎博士	山崎 博士	21
02049	建築図版(47) 山崎博士	山崎 博士	21	02049	建築図版(47) 山崎博士	山崎 博士	21
02050	建築図版(48) 山崎博士	山崎 博士	21	02050	建築図版(48) 山崎博士	山崎 博士	21
02051	建築図版(49) 山崎博士	山崎 博士	21	02051	建築図版(49) 山崎博士	山崎 博士	21
02052	建築図版(50) 山崎博士	山崎 博士	21	02052	建築図版(50) 山崎博士	山崎 博士	21
02053	建築図版(51) 山崎博士	山崎 博士	21	02053	建築図版(51) 山崎博士	山崎 博士	21
02054	建築図版(52) 山崎博士	山崎 博士	21	02054	建築図版(52) 山崎博士	山崎 博士	21
02055	建築図版(53) 山崎博士	山崎 博士	21	02055	建築図版(53) 山崎博士	山崎 博士	21
02056	建築図版(54) 山崎博士	山崎 博士	21	02056	建築図版(54) 山崎博士	山崎 博士	21
02057	建築図版(55) 山崎博士	山崎 博士	21	02057	建築図版(55) 山崎博士	山崎 博士	21
02058	建築図版(56) 山崎博士	山崎 博士	21	02058	建築図版(56) 山崎博士	山崎 博士	21
02059	建築図版(57) 山崎博士	山崎 博士	21	02059	建築図版(57) 山崎博士	山崎 博士	21
02060	建築図版(58) 山崎博士	山崎 博士	21	02060	建築図版(58) 山崎博士	山崎 博士	21
02061	建築図版(59) 山崎博士	山崎 博士	21	02061	建築図版(59) 山崎博士	山崎 博士	21
02062	建築図版(60) 山崎博士	山崎 博士	21	02062	建築図版(60) 山崎博士	山崎 博士	21
02063	建築図版(61) 山崎博士	山崎 博士	21	02063	建築図版(61) 山崎博士	山崎 博士	21
02064	建築図版(62) 山崎博士	山崎 博士	21	02064	建築図版(62) 山崎博士	山崎 博士	21
02065	建築図版(63) 山崎博士	山崎 博士	21	02065	建築図版(63) 山崎博士	山崎 博士	21
02066	建築図版(64) 山崎博士	山崎 博士	21	02066	建築図版(64) 山崎博士	山崎 博士	21
02067	建築図版(65) 山崎博士	山崎 博士	21	02067	建築図版(65) 山崎博士	山崎 博士	21
02068	建築図版(66) 山崎博士	山崎 博士	21	02068	建築図版(66) 山崎博士	山崎 博士	21
02069	建築図版(67) 山崎博士	山崎 博士	21	02069	建築図版(67) 山崎博士	山崎 博士	21
02070	建築図版(68) 山崎博士	山崎 博士	21	02070	建築図版(68) 山崎博士	山崎 博士	21
02071	建築図版(69) 山崎博士	山崎 博士	21	02071	建築図版(69) 山崎博士	山崎 博士	21
02072	建築図版(70) 山崎博士	山崎 博士	21	02072	建築図版(70) 山崎博士	山崎 博士	21
02073	建築図版(71) 山崎博士	山崎 博士	21	02073	建築図版(71) 山崎博士	山崎 博士	21
02074	建築図版(72) 山崎博士	山崎 博士	21	02074	建築図版(72) 山崎博士	山崎 博士	21
02075	建築図版(73) 山崎博士	山崎 博士	21	02075	建築図版(73) 山崎博士	山崎 博士	21
02076	建築図版(74) 山崎博士	山崎 博士	21	02076	建築図版(74) 山崎博士	山崎 博士	21
02077	建築図版(75) 山崎博士	山崎 博士	21	02077	建築図版(75) 山崎博士	山崎 博士	21
02078	建築図版(76) 山崎博士	山崎 博士	21	02078	建築図版(76) 山崎博士	山崎 博士	21
02079	建築図版(77) 山崎博士	山崎 博士	21	02079	建築図版(77) 山崎博士	山崎 博士	21
02080	建築図版(78) 山崎博士	山崎 博士	21	02080	建築図版(78) 山崎博士	山崎 博士	21
02081	建築図版(79) 山崎博士	山崎 博士	21	02081	建築図版(79) 山崎博士	山崎 博士	21
02082	建築図版(80) 山崎博士	山崎 博士	21	02082	建築図版(80) 山崎博士	山崎 博士	21
02083	建築図版(81) 山崎博士	山崎 博士	21	02083	建築図版(81) 山崎博士	山崎 博士	21
02084	建築図版(82) 山崎博士	山崎 博士	21	02084	建築図版(82) 山崎博士	山崎 博士	21
02085	建築図版(83) 山崎博士	山崎 博士	21	02085	建築図版(83) 山崎博士	山崎 博士	21
02086	建築図版(84) 山崎博士	山崎 博士	21	02086	建築図版(84) 山崎博士	山崎 博士	21
02087	建築図版(85) 山崎博士	山崎 博士	21	02087	建築図版(85) 山崎博士	山崎 博士	21
02088	建築図版(86) 山崎博士	山崎 博士	21	02088	建築図版(86) 山崎博士	山崎 博士	21
02089	建築図版(87) 山崎博士	山崎 博士	21	02089	建築図版(87) 山崎博士	山崎 博士	21
02090	建築図版(88) 山崎博士	山崎 博士	21	02090	建築図版(88) 山崎博士	山崎 博士	21
02091	建築図版(89) 山崎博士	山崎 博士	21	02091	建築図版(89) 山崎博士	山崎 博士	21
02092	建築図版(90) 山崎博士	山崎 博士	21	02092	建築図版(90) 山崎博士	山崎 博士	21
02093	建築図版(91) 山崎博士	山崎 博士	21	02093	建築図版(91) 山崎博士	山崎 博士	21
02094	建築図版(92) 山崎博士	山崎 博士	21	02094	建築図版(92) 山崎博士	山崎 博士	21
02095	建築図版(93) 山崎博士	山崎 博士	21	02095	建築図版(93) 山崎博士	山崎 博士	21
02096	建築図版(94) 山崎博士	山崎 博士	21	02096	建築図版(94) 山崎博士	山崎 博士	21
02097	建築図版(95) 山崎博士	山崎 博士	21	02097	建築図版(95) 山崎博士	山崎 博士	21
02098	建築図版(96) 山崎博士	山崎 博士	21	02098	建築図版(96) 山崎博士	山崎 博士	21
02099	建築図版(97) 山崎博士	山崎 博士	21	02099	建築図版(97) 山崎博士	山崎 博士	21
02100	建築図版(98) 山崎博士	山崎 博士	21	02100	建築図版(98) 山崎博士	山崎 博士	21
02101	建築図版(99) 山崎博士	山崎 博士	21	02101	建築図版(99) 山崎博士	山崎 博士	21
02102	建築図版(100) 山崎博士	山崎 博士	21	02102	建築図版(100) 山崎博士	山崎 博士	21

(表-2) 旧東京帝国大学工学部建築学科時代のノート、文献リスト

大聖堂コンペ等の図面が保存されていた。⁽³⁾

3. 関与した教会建築について

教会関係資料(表―3)は、戦後に関与した建築活動のものであり、昭和二十五年頃の資料が最も古い。元田が所属する聖公会が二十数棟、教団では十数棟で、他教派の教会建築にも関与している。会堂建築以外では、司祭・牧師館、付属幼稚園園舎、YMCA施設にも関与し、岡山の操山寮は代表的作品と言われているがまだ確認していない。またリスト中の作品が全作品かどうか、あるいは現存の有無、については今後の研究で明らかにしたい。

しかしこのリストから元田稔の教会建築の取り組みについて考察すると、建築家としての出発は軍国時代であつた為戦前の作品が見られず、恐らく信仰的抑圧の中で教会建築に関与する機会もなかったと考えられる。キリスト教国に敗北した日本人は西欧思想を求めて教会に多くの人々が集まり、それまで異国の文化の象徴として細々と生きていた教会建築は手狭となつて改築・新築時

[illegible]

(表-3) 関与した教会建築リストとその図面内容

代が到来した。こうした時代の中で元田稔は、大学で学んだ西欧建築思想を温存していたかの様に、この時代に多くの作品を残している事がリストから理解できる。人生で最も力強く信仰的に生きた時代であったと考えられ、その後、教会建築設計が減少し始めると、生活の手段として一般の建築にその活動の中心が移り、同時に教育の中で建築思想の継承に関与したと考えられる。

4. 現存する一部の教会建築での建築手法について

現存する元田の作品で明らかになった教会建築は、日本基督教団の荻窪教会⁽⁴⁾、高井戸教会で、阿佐ヶ谷教会は近年新築されていて旧会堂の絵が確認された。日本聖公会では大森聖アグネス教会、横浜聖アンデレ教会、聖マルコ教会（府中）で、三光教会では旧会堂（写真一）前面増築となり、佐ヶ谷聖ペテロ教会、小金井聖公会（一九八六）は解体されて新築会堂となっていた。また日本福音ルーテル教会雪ヶ谷教会も新築（一九九三、写真二）されていた。従って本稿では建設初期形態を示す五教会

について考察するが、昭和二十〜三十年代木造建築の荻窪教会（写真二）、聖マルコ教会、大森聖アグネス教会（写真一）、そして鉄筋コンクリート造（RC）は高井戸（写真一）、聖アンデレ教会であった。元田の初期作品である木造建築での共通点は棟・軒を低く抑さえた形態を教会建築に導入し、またRCの作品は昭和四十年代のもので、その共通点は会堂全体を高く持ち上げ、同様に塔も上昇性を持ってRC造の利点を用いていて、高井戸教会の様な打ち放しはコンクリートの作品は今後注目すべき建築



（写真－2） 日本基督教団荻窪教会の外観と礼拝室（S 32 年建築）



(日本基督教団高井戸教会 S 36 年建築)



(日本聖公会大森聖アグネス教会 S 31 年建築)



(日本福音ルーテル教会雪ヶ谷教会新会堂 H 5 年建築)



(日本聖公会三光教会旧会堂部分 S 35 年建築)

(写真-1) 元田稔の現存する教会建築外観(注、雪ヶ谷教会の現会堂は元田作品ではないが参考として示す)

である。内部では木造、RC造に限らず講壇・祭壇廻りに自然光を間接的に取り入れた演出が見られ、また対面形式の採用が多い。

おわりに

以上遺品の整理段階での数棟の建物調査ではあるが、元田稔の設計手法が若干明らかになった。それは木造建築では会堂としての母屋の棟・軒を低く押さえ、その存在を誇示しない日本の伝統的手法が見られ、簡素な塔付設により所在を控え目に示したデザイン手法が用いられ、逆にRC造では思い切った上昇性をもたらし、内部では講壇廻りの空間構成に光の演出が見られた点である。

しかし本稿での数例による特徴であって、今後この手法を手掛りとして、遺構である各教会建築について調査分析を行い、建築手法と人物像を考察する必要がある。

脚注

- (1) 本稿は研究組織「教会建築」担当の筆者、「ノート研究」

担当高崎格（札幌工業高校教諭）、「一般建築」担当の伊藤寛（道都大学教授）、中山敏雄（建築設計事務所主宰・工修）、後藤俊之（北海道東海大学非常勤講師・芸修）で三年前から実施している研究であり、その一部成果によってまとめたものである。

(2) 日本建築学会北海道支部研究報告集No.六八（一九九五）

一六五「東京帝国大学時代のノートから（建築家元田稔研究 その三）高崎格 参照。

(3) 日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）一九九三

歴史意匠九二二五「建築家元田稔研究（その一）残された資料（遺品）による建築活動への考察」中山敏雄他 参照。

(4) 日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）一九九四

歴史意匠九一五〇「日本基督教団荻窪教会の教会建築との関わり 建築家元田稔研究（その二）」川島洋一 参照。